

# 講義要綱

## SYLLABUS

2021年度

柔整科

3

年

### 【専門基礎分野】

解剖学特論Ⅰ  
解剖学特論Ⅱ  
生理学特論Ⅰ  
生理学特論Ⅱ  
病理学概論Ⅰ  
病理学概論Ⅱ  
一般臨床医学Ⅲ  
一般臨床医学Ⅳ  
外科学概論Ⅱ  
衛生学Ⅱ  
リハビリテーション医学Ⅱ  
臨床外傷学  
関係法規  
柔道Ⅳ  
社会保障制度

### 【専門分野】

柔道整復特論Ⅰ  
柔道整復特論Ⅱ  
画像評価学  
柔整脱臼軟損実技Ⅲ  
柔整総合実技Ⅰ  
柔整総合実技Ⅱ  
柔整総合実技Ⅲ  
臨床実習Ⅳ



学校法人 了徳寺学園

[授業科目]

**解剖学特論Ⅰ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>木原 和彦</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師、柔道整復師、大学の非常勤講師の教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	---	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

解剖学は柔道整復師を志す学生が医学を理解するための基礎教科である。すなわち、解剖学は単に知識を記憶することではなく、人体構造のイメージを直接身につけることを目標としている。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、前期卒業単位認定試験の受験は認めない。  
前期卒業単位認定試験において6割以上を合格とする。

[教科書]

[参考書]

全国柔道整復学校協会監修教科書 解剖学第2版

[履修の条件・留意点]

- ・各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。
- ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	人体解剖学概説；細胞および組織、到達度確認	講義
2回	人体解剖学概説；組織、発生、体表の区分、到達度確認	講義
3回	人体解剖学概説（予備） 運動器系；骨格器（総論、脊柱）	講義
4回	運動器系；骨格器（総論、脊柱）、到達度確認	講義
5回	運動器系；骨格器（上肢）、到達度確認	講義
6回	運動器系；骨格器（下肢）、到達度確認	講義
7回	運動器系；骨格器（頭蓋）	講義
8回	運動器系；骨格器の到達度確認	講義
9回	運動器系；筋系（頭頸部）、到達度確認	講義
10回	運動器系；筋系（胸部、腹部）、到達度確認	講義
11回	運動器系；筋系（背部）、到達度確認	講義
12回	運動器系；筋系（上肢）、到達度確認	講義
13回	運動器系；筋系（下肢）、到達度確認	講義
14回	脈管系；総論	講義
15回	脈管系；血管系、心臓、到達度確認	講義
16回	脈管系；動脈（頭頸部）、到達度確認	講義
17回	脈管系；動脈（上肢、胸腹部）、到達度確認	講義
18回	脈管系；動脈編（下肢、静脈総論）、到達度確認	講義
19回	脈管系；静脈系、到達度確認	講義
20回	脈管系；胎児循環、リンパ系、到達度確認	講義

[授業科目]

**解剖学特論Ⅱ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>木原 和彦</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師、柔道整復師、大学の非常勤講師の教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	<b>後期</b>	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

解剖学は柔道整復師を志す学生が医学を理解するための基礎教科である。すなわち、解剖学は単に知識を記憶することではなく、人体構造のイメージを直接身につけることを目標としている。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業試験の受験は認めない。  
卒業試験において6割以上を合格とする。

[教科書]

[参考書]

全国柔道整復学校協会監修教科書 解剖学第2版

[履修の条件・留意点]

- ・各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。
- ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	消化器系 (概要、口腔～食道)	講義
2回	消化器系 (胃～大腸)	講義
3回	消化器系 (肝臓、膵臓)	講義
4回	消化器系 到達度確認	講義
5回	呼吸器系 (鼻腔、喉頭)	講義
6回	呼吸器系 (気管、肺) 到達度確認	講義
7回	泌尿器系 腎臓	講義
8回	泌尿器系 尿路 到達度確認	講義
9回	生殖器系 男性	講義
10回	生殖器系 女性	講義
11回	生殖器系 到達度確認	講義
12回	内分泌器系 到達度確認	講義
13回	神経系 (神経系の基礎、中枢神経；脳)	講義
14回	神経系 (中枢神経；脳)	講義
15回	神経系 (中枢神経；脊髄、伝導路)	講義
16回	神経系 (末梢神経；脳神経)	講義
17回	神経系 (末梢神経；脊髄神経)	講義
18回	神経系 (自律神経)、到達度確認	講義
19回	感覚器系 目、外皮	講義
20回	感覚器系 聴覚、平衡器	講義

[授業科目]

**生理学特論Ⅰ****3学年**

[基本情報]

担当教員	神長 まどか		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員、医療系大学で生理学を担当している特任助教が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

1・2年次に学んだ生理学についての理解をさらに深める。特論Ⅰでは生理学の基礎、神経、筋、感覚、体液と血液、循環、呼吸について学び、施術の際に説明でき、国家試験にも対応できる知識を身に付ける。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、前期単位認定試験の受験は認めない。

小テスト（2回の小テストの平均点、満点は20点）と単位認定試験（80点満点）の合計100点満点中、60点以上を合格とする。試験範囲はこの授業で学習した範囲とする。

[教科書]

[参考書]

生理学（全国柔道整復学校協会）改訂第3版

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂.

[履修の条件・留意点]

必ず復習をすること。予習は必要ありません。その週に行われた授業内容の復習をすること、即ち自主学習をすることが国家試験合格のためには必須です。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	ガイダンス、生理学の基礎（教科書P.1～21）	講義
2回	体液の生理学（教科書P.193～194、P.198～200）	講義
3回	神経の基本的機能（教科書P.201～217）、	講義
4回	神経系の機能（教科書P.219～234）	講義
5回	神経系の機能（教科書P.252～257）、筋肉の機能（教科書P.265～279）	講義
6回	筋肉の機能（教科書P.279～284）運動の調節（教科書P.234～237）	講義
7回	運動の調節（教科書P.237～248、P.249・250）	講義
8回	感覚の生理学（教科書P.285～294）	講義
9回	感覚の生理学（教科書P.296～313）	講義
10回	生理学の基礎・神経・筋肉・運動・感覚の小テスト	講義
11回	血液の生理学（教科書P.23～30）	講義
12回	血液の生理学（教科書P.31～35）	講義
13回	循環の生理学（教科書P.38～47）	講義
14回	循環の生理学（教科書P.47～54）	講義
15回	循環の生理学（教科書P.55～63）	講義
16回	呼吸の生理学（教科書P.65～73）	講義
17回	呼吸の生理学（教科書P.73～81）	講義
18回	血液・循環・呼吸の小テスト	講義
19回	第1回～第18回の復習	講義
20回	まとめと解説	講義

[授業科目]

**生理学特論Ⅱ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>神長 まどか</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員、医療系大学で生理学を担当している特任助教が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	<b>後期</b>	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

1・2年次に学んだ生理学についての理解をさらに深める。特論Ⅱでは消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄、内分泌、生殖、骨の生理学について学び、施術の際に説明でき、国家試験にも対応できる知識を身に付ける。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業試験の受験は認めない。卒業試験において6割以上を合格とする。試験範囲は生理学特論Ⅰで履修した範囲も含めることとする。

[教科書]

[参考書]

生理学（全国柔道整復学校協会）改訂第3版	公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』，南江堂。
----------------------	------------------------------------

[履修の条件・留意点]

必ず復習をすること。学内試験や国家試験の過去問等、問題を解く機会が増えてきますが、やりっぱなしでは意味がないので、しっかりと復習してください。その積み重ねが国家試験合格へと繋がります。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	消化と吸収（教科書P83～95）	講義
2回	消化と吸収（教科書P85～101）	講義
3回	栄養と代謝（教科書P103～113）	講義
4回	体温とその調節（教科書P115～124）	講義
5回	尿の生成と排泄（教科書P126～132）	講義
6回	尿の生成と排泄（教科書P132～138）	講義
7回	消化と吸収・栄養と代謝・体温・尿の生成と排泄の小テスト	講義
8回	内分泌系の機能（教科書P141～153）	講義
9回	内分泌系の機能（教科書P153～162）	講義
10回	内分泌系の機能（教科書P162～169）	講義
11回	生殖（教科書P171～184）	講義
12回	骨の生理学（P.185～192）	講義
13回	内分泌・生殖・骨の小テスト	講義
14回	問題演習①	講義
15回	問題演習②	講義
16回	問題演習③	講義
17回	問題演習④	講義
18回	問題演習⑤	講義
19回	問題演習⑥	講義
20回	問題演習⑦	講義

2021年度

[ 分野 ]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

**病理学概論Ⅱ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>最上 真理子</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/医師免許を持つ教員が指導する。					
開講学期	---	<b>後期</b>	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

疾患の成り立ちを病因と形態学的観点から理解する。身体機能の低下や成因を解析し、機能の回復を促進するための知識を習得する。

[評価方法]

単位認定は卒業認定試験にて判定する。

[教科書]

[参考書]

病理学概論（医歯薬出版）

[履修の条件・留意点]

遅刻と私語をしないこと。机上に食物を置かないこと。授業中にレポートを作成して提出すること。返却されたレポートは配布資料と共にファイルに綴じて保存すること。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	生体防御機構と免疫、自然免疫、獲得免疫	講義
2回	液性免疫、細胞性免疫、サイトカイン	講義
3回	免疫不全	講義
4回	自己免疫疾患	講義
5回	アレルギーの分類	講義
6回	アレルギー性疾患	講義
7回	腫瘍の定義、腫瘍の細胞生物学	講義
8回	腫瘍の発育段階、発癌のメカニズム	講義
9回	腫瘍の分類	講義
10回	主要な癌と肉腫	講義
11回	先天異常	講義
12回	染色体異常	講義
13回	遺伝子異常	講義
14回	栄養障害	講義
15回	感染症（細菌）	講義
16回	感染症（ウイルス）	講義
17回	損傷	講義
18回	運動器の病理	講義
19回	復習	講義
20回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

[授業科目]

**一般臨床医学Ⅲ****3学年**

[基本情報]

担当教員	初鹿 達朗		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/医師免許を持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。具体的には代謝疾患、内分泌疾患、血液疾患、腎疾患、神経疾患、感染症、膠原病などを学び、臨床現場で適切な評価ができ、説明できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験の正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

一般臨床医学 改訂第3版 (医歯薬出版株式会社)

[履修の条件・留意点]

授業中、飲み物の摂取、ラップトップ・タブレット・スマートフォンなどの使用は可。ただし、いずれも音は出ないように配慮してください。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	D 代謝疾患	講義
2回	E 内分泌疾患①	講義
3回	E 内分泌疾患②	講義
4回	F 血液・造血管疾患①	講義
5回	F 血液・造血管疾患②	講義
6回	G 腎・尿路疾患①	講義
7回	G 腎・尿路疾患②	講義
8回	H 神経疾患①	講義
9回	H 神経疾患②	講義
10回	H 神経疾患③	講義
11回	H 神経疾患④	講義
12回	H 神経疾患⑤	講義
13回	I 感染症①	講義
14回	I 感染症②	講義
15回	J リウマチ・膠原病①	講義
16回	J リウマチ・膠原病②	講義
17回	J リウマチ・膠原病③	講義
18回	前期のまとめ	講義
19回	まとめ、解説 (単位認定試験)	講義
20回	単位認定試験の解説	講義

2021年度

[ 分野 ]

専門基礎

/

疾病と傷害

[授業科目]

**一般臨床医学Ⅳ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>初鹿 達朗</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/医師免許を持つ教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	<b>後期</b>	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。臨床現場で適切な評価ができ、説明できる知識を身に付けることを目標とする。また、今まで学んだ内容を復習し、国家試験でも対応できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業試験の受験は認めない。  
卒業試験において6割以上を合格とする。

[教科書]

[参考書]

一般臨床医学 改訂第3版 (医歯薬出版株式会社)

[履修の条件・留意点]

授業中、飲み物の摂取、ラップトップ・タブレット・スマートフォンなどの使用は可。ただし、いずれも音は出ないように配慮してください。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	A 呼吸器疾患のまとめ	講義
2回	B 循環器疾患のまとめ①	講義
3回	B 循環器疾患のまとめ②	講義
4回	C 消化器疾患のまとめ①	講義
5回	C 消化器疾患のまとめ②	講義
6回	D 代謝疾患のまとめ	講義
7回	E 内分泌疾患のまとめ	講義
8回	F 血液・造血器疾患のまとめ	講義
9回	G 腎・尿路疾患のまとめ	講義
10回	H 神経疾患のまとめ①	講義
11回	H 神経疾患のまとめ②	講義
12回	I 感染症のまとめ	講義
13回	J リウマチ・膠原病のまとめ	講義
14回	国家試験過去問演習①	講義
15回	国家試験過去問演習②	講義
16回	国家試験過去問演習③	講義
17回	国家試験過去問演習④	講義
18回	国家試験過去問演習⑤	講義
19回	国家試験過去問演習⑥	講義
20回	卒業試験の解説	講義



2021年度

[ 分野 ]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

**外科学概論Ⅱ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>河村 英恭</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/医師免許を持つ教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	<b>後期</b>	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

柔道整復師は、主に整形外科学の学問との関わりが強いと思われる。整形外科学は人体の骨・関節・筋肉等の運動器系を診療研究する「外科学」の一分野である。その「外科学」の基礎となる総論的な事項とともに、日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科的疾患について知識等を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は卒業認定試験にて判定する。

[教科書]

[参考書]

外科学概論

[履修の条件・留意点]

国家試験で問われることが多いところを中心に、授業中に説明します。下記の教科書に準じて授業を進めます。他科目を含め覚えることが多いので、外科学概論については授業中になるべく頭に入れるようにしてください。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	イントロダクション・損傷	講義
2回	炎症と外科感染症	講義
3回	腫瘍	講義
4回	ショック・心肺蘇生法	講義
5回	輸血・輸液	講義
6回	消毒と滅菌	講義
7回	手術・麻酔	講義
8回	移植と免疫	講義
9回	出血と止血	講義
10回	外傷総論	講義
11回	脳神経外科疾患	講義
12回	甲状腺・頸部疾患	講義
13回	胸壁・呼吸器疾患	講義
14回	心臓・脈管疾患	講義
15回	乳腺疾患	講義
16回	腹部外科疾患	講義
17回	総復習①	講義
18回	総復習②	講義
19回	総復習③	講義
20回	総復習④	講義

[授業科目]

**衛生学 II****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>最上 紀美子</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/公衆衛生活動の講演を行っている医学博士が指導する					
開講学期	<b>前期</b>	<b>後期</b>	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

地域医療を担う存在である柔道整復師は、地域の公衆衛生活動の推進者となることが期待されている。  
本講義では柔道整復師に必要な衛生学・公衆衛生学の知識を学習する。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業試験の受験は認めない。  
単位認定は2022年1月29日に実施する卒業認定試験にて判定する。

[教科書]

[参考書]

衛生学・公衆衛生学改訂第6版

[履修の条件・留意点]

遅刻、欠席の取り扱いについては学則どおりとします。  
授業で配布したプリントは保存するようにしてください。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	健康の概念	健康の定義、衛生統計	講義
2回	疾病予防と健康管理	疾病予防の段階	講義
3回	感染症の予防	感染と発病、病原体	講義
4回	感染症の予防	免疫、予防接種	講義
5回	消毒	消毒法一般、種類と方法	講義
6回	環境衛生（環境保健）	環境と適応、環境と健康	講義
7回	環境衛生（環境保健）	公害、環境問題	講義
8回	生活環境・食品衛生活動	上水・下水、住居・衣服と健康	講義
9回	生活環境・食品衛生活動	食品衛生、廃棄物	講義
10回	母子保健	母子保健、母子保健指標、母子保健対策	講義
11回	学校保健	学齢期の健康状況、学校における保健活動	講義
12回	産業保健	職業病、労働災害、産業保健対策	講義
13回	成人・高齢者保健	成人・高齢者の健康状況、生活習慣病	講義
14回	精神保健	精神の病気、精神障害者の対策	講義
15回	地域保健と国際保健	地域保健活動、国際保健組織	講義
16回	衛生行政と保健医療の制度	保健所の業務、医療・福祉制度	講義
17回	医療の倫理と安全の確保	医療の倫理、医療安全の確保	講義
18回	疫学	疫学指標、疫学研究の種類	講義
19回	まとめ	国家試験対策	講義
20回	まとめ	国家試験対策	講義

[授業科目]

**リハビリテーション医学Ⅱ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>浅田 菜穂</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/理学療法士、医療系大学で講師を務める教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	---	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

リハビリテーションの概念および関連職種について理解を深める。また、疾患別にリハビリテーションについて理解し、関連法について学ぶ。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

監修：リハビリテーション医学 改訂第4版

必要に応じて提示する

[履修の条件・留意点]

授業内において、可能な限り自らの知識と出来るように努めること。また、リハビリテーションの理解をさらに深める為に、他の図書も参考にすること。授業中、飲食物は机の上に置かないこと。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	リハビリテーション医学と関連職種①（理学療法）	講義
2回	リハビリテーション医学と関連職種②（作業療法、言語聴覚療法）	講義
3回	脳卒中①	講義
4回	脳卒中②	講義
5回	高齢者のリハビリテーション①	講義
6回	高齢者のリハビリテーション②	講義
7回	補装具①	講義
8回	補装具②	講義
9回	運動器のリハビリテーション（骨折）	講義
10回	運動器のリハビリテーション（骨粗鬆症、捻挫）	講義
11回	運動器のリハビリテーション（脊髄損傷）	講義
12回	運動器のリハビリテーション（上肢損傷後症候群）	講義
13回	運動器のリハビリテーション（下肢損傷後症候群）	講義
14回	運動器のリハビリテーション（頸肩腕症候群）	講義
15回	運動器のリハビリテーション（腰痛症）	講義
16回	運動器のリハビリテーション（肋骨骨折、アキレス腱断裂）	講義
17回	小児疾患、内部障害のリハビリテーション	講義
18回	リハビリテーションと福祉	講義
19回	障害者スポーツ	講義
20回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

[授業科目]

**臨床外傷学****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>下小野田 一騎</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/医師免許を持つ医療系大学准教授が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	<b>後期</b>	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

柔道整復師の業務範囲が否か、適切な判断ができる知識を身に付ける。柔道整復術の限界はどこまでかを理解し、業務範囲外のものに対しても、適切な対応ができる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業試験の受験は認めない。  
卒業試験において6割以上を合格とする。

[教科書]

[参考書]

整形外科学（改正4版）、医療の中の柔道整復	標準整形外科学（第14版）
-----------------------	---------------

[履修の条件・留意点]

1) 特別の理由がない遅刻は出席と認めない。2) 講義中の私語、携帯電話による通話、メールは禁止し、直ちに退席を求める。3) 学習状況に応じて授業計画は柔軟に変更する。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	疾患別各論 ⑥神経麻痺と絞扼性神経障害	講義
2回	疾患別各論 ⑦腕神経叢麻痺・分娩麻痺、全身性神経・筋疾患⑧脊髓腫瘍、脊髓損傷	講義
3回	身体部位別各論 ①頸部 ②胸部	講義
4回	身体部位別各論 ③腰部	講義
5回	身体部位別各論 ④肩関節・肩甲帯	講義
6回	身体部位別各論 ⑤上腕・肘関節	講義
7回	身体部位別各論 ⑥前腕・手関節	講義
8回	身体部位別各論 ⑦手・手指	講義
9回	身体部位別各論 ⑧骨盤・股関節	講義
10回	身体部位別各論 ⑨大腿・膝関節	講義
11回	身体部位別各論 ⑩下腿・足関節	講義
12回	身体部位別各論 ⑪足・足趾	講義
13回	1 柔道整復術の適否を考える 2 損傷に類似した症状を示す疾患①	講義
14回	2 損傷に類似した症状を示す疾患②	講義
15回	3 血流障害を伴う損傷 4 末梢神経損傷を伴う損傷	講義
16回	5 脱臼骨折 6 外出血を伴う損傷	講義
17回	7 病的骨折及び脱臼 8 意識障害を伴う損傷	講義
18回	9 脊髄症状のある損傷 10 呼吸運動障害を伴う損傷	講義
19回	11 内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義
20回	12 高エネルギー外傷	講義

[授業科目]

**関係法規****3学年**

[基本情報]

担当教員	西尾 悠介		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/柔道整復師、鍼灸師、JSPO-ATを持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復師として業務に従事するうえで必要な法令を理解する。柔道整復師法、及びその他の医療福祉法規を学び、法令の中で適切な施術ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験を認めない。

単位認定試験において60点以上の場合を合格とする。

[教科書]

[参考書]

関係法規 2021年版 医歯薬出版

[履修の条件・留意点]

- ・各講義の復習をしっかりと行い、各講義の内容を理解しておくこと。
- ・毎回の授業の理解度の確認のために、前回授業の復習テストを実施します。
- ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	序論：法の意義、インフォームドコンセント、医療過誤とリスクマネジメント	講義
2回	柔道整復師法とその関連内容：第一章 総則	講義
3回	第二章：免許	講義
4回	第三章：柔道整復師国家試験	講義
5回	第四章：業務	講義
6回	第五章：施術所	講義
7回	第六章：雑則	講義
8回	第七章：罰則	講義
9回	第八章：指定登録機関及び指定試験期間 第九章：附則	講義
10回	医療従事者の関係法規	講義
11回	医療法	講義
12回	社会福祉関係法規 p 90～	講義
13回	社会福祉関係法規 p 95～	講義
14回	その他関係法規	講義
15回	国民療養費	講義
16回	柔道整復師受領委任払い	講義
17回	第1回～第6回 復習	講義
18回	第6回～第11回 復習	講義
19回	第12回～第16回 復習	講義
20回	総まとめ、解説	講義

[授業科目]

**柔道Ⅳ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>増地 克之</b>		単位数	<b>1</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	柔道6段。国立大学柔道部監督や柔道全日本監督を務めている教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	---	授業形態	---	<b>実習</b>	

[授業目標]

柔道を通じて、精力善用、自他共栄の精神を身に付ける。柔道の礼儀作法、投げの型、受け身を学び、人に対する尊敬と謙虚さを身に付け、社会へ貢献する考え方を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。  
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

昇段審査のための柔道の形入門(投の形)(柔の形)  
小俣幸嗣著 大泉書店

[履修の条件・留意点]

10月の認定実技試験に向け、身だしなみ（ネックレス、ヘアピン、ピアスなど）に十分注意して授業に臨む。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	前方回転受身、投の形（始めの動作、終わりの動作、支釣込足）	実習
2回	投の形、支釣込足	実習
3回	投の形 釣込腰	実習
4回	投の形 釣込腰	実習
5回	投の形 払腰	実習
6回	投の形 払腰	実習
7回	投の形（始めの動作、終わりの動作、支釣込足の復習）オンライン予定	実習
8回	投の形（始めの動作、終わりの動作、釣込腰の復習）オンライン予定	実習
9回	投の形（始めの動作、終わりの動作、払腰の復習）オンライン予定	実習
10回	座学：柔道の歴史・理念・審判規定（オンライン予定）	実習
11回	座学：柔道の歴史・理念・審判規定（オンライン予定）	実習
12回	投の形 浮落	実習
13回	投の形 浮落	実習
14回	投の形 背負投	実習
15回	投の形 背負投	実習
16回	投の形 浮腰	実習
17回	投の形 浮腰	実習
18回	投の形 送足払、約束乱取	実習
19回	投の形 送足払、約束乱取	実習
20回	まとめ、解説	実習

[授業科目]

**社会保障制度****3学年**

[基本情報]

担当教員	泉澤 勝		単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験有り/自身で接骨院を開業している柔道整復師、理学療法士を持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

社会保障制度について理解する。保健を扱う資格として、改正が行われる保障制度の最新の内容を理解し、適切に制度を利用できる知識を身に付ける。

[評価方法]

前期末試験で60%取得で単位を認定する。

[教科書]

[参考書]

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）

[履修の条件・留意点]

療養費は柔道整復師が扱える制度になります。適切に運用できるよう、授業に集中して挑んで下さい。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	ガイダンス、社会保障の3つの機能、あるべき社会と今後の社会保障	実習
2回	公的年金の意義、公的年金制度の仕組み、介護保険の意義と仕組み、社会福祉・公的年金	実習
3回	医療保険の目的と意義	実習
4回	保険診療の概要	実習
5回	医療保険財政の現状と課題	実習
6回	診療報酬制度	実習
7回	療養費とは	実習
8回	柔道整復療養費	実習
9回	柔道整復療養費の推移	実習
10回	療養費の算定	実習
11回	療養費請求のケーススタディ①	実習
12回	療養費請求のケーススタディ②	実習
13回	療養費請求のケーススタディ③	実習
14回	総復習（社会保障制度、医療保険制度）	実習
15回	まとめ、解説	実習

[授業科目]

**柔道整復特論 I****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>林 泰京</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/柔道整復師及び専科教員、はり師きゅう師を持ち大学で整形外科を専門に学んだ教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	---	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

上肢、下肢、体幹の各骨折の特徴、基本的な治療方針などについて学び、医師との連携を考慮した能力を養う。機能解剖、画像読影（上肢、下肢、体幹）する能力を養う。

[評価方法]

模擬試験内の総論・骨折問題の得点全体を3割、最終日の確認試験を7割として総合判定により認定する。

[教科書]

[参考書]

「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」南江堂	「標準整形外科」「図解骨折治療の進め方」共に医学書院
---------------------------	----------------------------

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料は配布するも教科書を復読する事。練習問題、過去の国家試験問題を実施し、理解度・要望に応じ変更の可能性あり。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	鎖骨肩甲骨骨折	講義
2回	上腕骨近位端骨折	講義
3回	上腕骨々幹部骨折	講義
4回	上腕骨顆上骨折	講義
5回	上腕骨遠位端骨折	講義
6回	前腕骨近位端骨折	講義
7回	前腕骨々幹部骨折	講義
8回	前腕骨遠位端骨折	講義
9回	手根骨骨折	講義
10回	中手骨・指骨骨折	講義
11回	頭蓋骨・脊椎骨折	講義
12回	骨盤骨骨折	講義
13回	大腿骨近位端骨折	講義
14回	大腿骨骨幹部骨折	講義
15回	大腿骨遠位端・膝蓋骨骨折	講義
16回	下腿骨近位端骨折	講義
17回	下腿骨々幹部骨折	講義
18回	足関節部骨折	講義
19回	足根骨・中足骨骨折	講義
20回	総まとめ、確認試験、解説	講義



[授業科目]

**柔道整復特論Ⅱ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>林 泰京</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/柔道整復師及び専科教員、はり師きゅう師を持ち大学で整形外科学を専門に学んだ教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	<b>後期</b>	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

1, 2年次に学んだ総論、骨折についての理解をさらに深める。特論Ⅱでは総論と全骨折、軟部組織損傷を実際の画像を用いて学び、より臨床的な知識を深める。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、卒業認定試験の受験は認めない。  
卒業認定試験において6割以上を合格とする。

[教科書]

[参考書]

「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」南江堂	「標準整形外科学」「図解骨折治療の進め方」共に医学書院
---------------------------	-----------------------------

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料を配布する。教科書を必ず持参する事。本講座の活用で春の栄冠をぜひ勝ち取ってください！授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	骨折の分類、症状	講義
2回	骨折の合併症から予後まで、及び骨折全範囲復習	講義
3回	関節、軟部、神経損傷について、及び骨折全範囲復習	講義
4回	整復法、固定法について、及び骨折全範囲復習	講義
5回	後療法について、及び骨折全範囲復習	講義
6回	10月30日学内模試復習、解説	講義
7回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
8回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
9回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
10回	国試受験手続認定試験問題復習、解説	講義
11回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
12回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
13回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
14回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
15回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
16回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
17回	卒業試験問題復習、解説	講義
18回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
19回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義
20回	柔道整復学総論全般、及び骨折全範囲復習	講義

[授業科目]

**画像評価学****3学年**

[基本情報]

担当教員	山本 清		単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験あり/接骨院の院長を務めていた経験豊富な柔道整復師及び専科教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

種々の画像を読影できる能力を身に付ける。レントゲンやMRIなどの画像のみかたを学ぶ。また、柔道整復師が使用できる超音波観察装置の使用方法を理解し、施術の補助として活用できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

第15回目に筆記試験を実施します。100点満点で60点以上を合格点とします。

[教科書]

[参考書]

「施術の適応と医用画像の理解」 南江堂	関節学 ハンドブック 医歯薬出版株式会社
---------------------	----------------------

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料は配布するも教科書を復読する事。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。携帯電話、スマホの使用は禁止する。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	医用画像の理解 (X線写真 CT MRI 超音波)	講義
2回	国家試験の画像出題傾向の分析	講義
3回	肩関節の撮影法と評価 1	講義
4回	肩関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
5回	肘関節の撮影法と評価 1	講義
6回	肘関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
7回	手関節の撮影法と評価 1	講義
8回	手関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
9回	股関節の撮影法と評価	講義
10回	膝関節の撮影法と評価 1	講義
11回	膝関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
12回	足関節の撮影法と評価 1	講義
13回	足関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
14回	体幹の撮影法と評価、まとめ	講義
15回	まとめ、解説 (単位試験)	講義

[授業科目]

**柔整脱臼軟損実技Ⅲ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>森澤 隆弘</b>		単位数	<b>1</b>	時間数	<b>40</b>
実務/資格	臨床経験有り/自身で接骨院を開業している柔道整復師及び専科教員、はり師きゅう師を持つ教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	---	授業形態	---	<b>実習</b>	

[授業目標]

上肢、下肢、体幹の脱臼、軟部組織損傷に対して処置を学ぶ。上肢、下肢、体幹の脱臼の整復、固定の基礎知識、技術を身に付ける。また、上肢、下肢、体幹の軟部組織損傷の検査法と処置できる技術をみにつけ、臨床現場で施術できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

前期末試験成績、学則に沿った出席、遅刻、早退日数と授業態度

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論編、実技編

標準整形外科、解剖学

[履修の条件・留意点]

実質的に、卒業後の柔整業務で非常に関わりの深い授業です。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	顎関節脱臼、顎関節症	参考プリント、板書	実習
2回	鎖骨脱臼(肩鎖関節、胸鎖関節)	参考プリント、板書	実習
3回	肩関節脱臼①	参考プリント、板書	実習
4回	肩関節脱臼②	参考プリント、板書	実習
5回	肩関節軟損①	参考プリント、板書	実習
6回	肩関節軟損②	参考プリント、板書	実習
7回	肘関節脱臼	参考プリント、板書	実習
8回	肘関節～前腕部軟損①	参考プリント、板書	実習
9回	肘関節～前腕部軟損② (神経麻痺)	参考プリント、板書	実習
10回	手関節～指関節脱臼①	参考プリント、板書	実習
11回	手関節～指関節脱臼②	参考プリント、板書	実習
12回	手関節～指関節軟損①	参考プリント、板書	実習
13回	手関節～指関節軟損②	参考プリント、板書	実習
14回	手関節～指関節軟損③	参考プリント、板書	実習
15回	前期総まとめ、予備日		実習
16回	肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肘関節脱臼、肘内障診察、整復①		実習
17回	肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肘関節脱臼、肘内障診察、整復②		実習
18回	腱板損傷、二頭筋長頭腱損傷診察、施術		実習
19回	大腿筋損傷、膝関節捻挫、腓腹筋損傷、足関節捻挫診察、施術		実習
20回	まとめ、解説		実習

[授業科目]

**病理学概論 I****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>最上 真理子</b>		単位数	<b>2</b>	時間数	<b>30</b>
実務/資格	臨床経験有り/医師免許を持つ教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	<b>後期</b>	授業形態	<b>講義</b>	---	

[授業目標]

病理学についての理解と疾患による生体の変化を病因、形態学的観点から理解する。病理学とはどのような学問かを理解し、生体の観察方法、組織の萎縮や肥大変性、疾病の分類、壊死、循環障害、炎症について、柔道整復師として必要な知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、前期単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

病理学概論（医歯薬出版）

[履修の条件・留意点]

遅刻と私語をしないこと。机上に食物を置かないこと。授業中にレポートを作成して提出すること。返却されたレポートは配布資料と共にファイルに綴じて保存すること。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	病理学とは、病理学の対象、剖検、観察方法	講義
2回	疾病の分類、症候の分類	講義
3回	萎縮、変性	講義
4回	代謝障害	講義
5回	老化、壊死、死	講義
6回	血液の循環障害	講義
7回	リンパ液の循環障害	講義
8回	脱水症、高血圧	講義
9回	肥大、過形成	講義
10回	脳死と臓器移植	講義
11回	炎症の一般	講義
12回	炎症の原因と形態学的変化	講義
13回	炎症の分類	講義
14回	演習	講義
15回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

[授業科目]

**柔整総合実技 I****3学年**

[基本情報]

担当教員	①山本 清②西尾 祐介③西田 朋美	単位数	1	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/3名ともに臨床経験がある柔道整復師及び専科教員を持つ教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

1, 2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。特に認定実技審査項目を重点的に学び、実際の臨床現場を想定し、来院した患者の対応、評価、施術を正しく行うことができる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。  
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・実技編 改訂第2版

[履修の条件・留意点]

受講時は必ず白衣を着用すること。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	肩腱板損傷の診察・検査法実技	実習
2回	上腕二頭筋腱損傷の診察・検査法実技	実習
3回	アキレス腱断裂固定・足関節捻挫固定	実習
4回	鎖骨骨折の整復・固定	実習
5回	上腕骨外科頸外転型骨折の整復	実習
6回	コーレス骨折の整復・固定	実習
7回	第5中手骨頸部骨折の固定、下腿骨骨幹部骨折の固定	実習
8回	下腿骨骨幹部骨折の固定、肋骨骨折の固定	実習
9回	膝関節損傷の診察・検査法 ( ACL・MCL・半月板 )	実習
10回	足関節捻挫の診察・検査法 / テーピング ( 足関節・膝関節 )	実習
11回	大腿部損傷・下腿三頭筋損傷の診察・検査法	実習
12回	肩関節脱臼の診察・整復 / 固定	実習
13回	肩鎖関節脱臼の診察・整復 / 固定	実習
14回	肘内障の診察・整復 / PIPJ背側脱臼固定	実習
15回	脱臼の固定	実習
16回	鎖骨骨折の整復・固定	実習
17回	コーレス骨折の整復・固定	実習
18回	上腕骨外科頸外転型骨折の整復	実習
19回	肋骨骨折・ボクサー骨折・下腿骨幹部骨折固定	実習
20回	総まとめ ・解説	実習

[授業科目]

**柔整総合実技Ⅱ****3学年**

[基本情報]

担当教員	①増地 克之 ②西田 朋美	単位数	1	時間数	40
実務/資格	①柔道6段。大学柔道部監督や柔道全日本監督を務めている教員が指導する。 ②臨床経験有り/整形外科に勤めていた柔道整復師及び専科教員を持つ教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

1, 2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。柔道、認定実技審査項目の学習と、総論を理解した上での骨折脱臼の臨床的施術方法を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。  
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

昇段審査のための柔道の形入門(投の形)(柔の形)  
小侯幸嗣著 大泉書店

[履修の条件・留意点]

10月の認定実技試験に向け、身だしなみ（ネックレス、ヘアピン、ピアスなど）に十分注意して授業に臨む。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	投の形 内股、約束乱取	実習
2回	投の形 内股、約束乱取	実習
3回	投の形 肩車	実習
4回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
5回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
6回	プレ認定実技審査	実習
7回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
8回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
9回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
10回	まとめ、解説	実習
11回	肩鎖関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
12回	肩関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
13回	肘関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
14回	上腕骨外科頸骨折の理論と整復実技	実習
15回	橈骨遠位端部骨折の理論と整復実技	実習
16回	顎関節脱臼の理論と整復実技	実習
17回	上肢脱臼の総復習	実習
18回	下肢脱臼の総復習	実習
19回	上下肢の総復習	実習
20回	上下肢の総復習	実習

[授業科目]

## 柔整総合実技Ⅲ

3学年

[基本情報]

担当教員	森澤 隆弘		単位数	1	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/自身で接骨院を開業している柔道整復師及び専科教員、はり師きゅう師を持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

1, 2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。認定実技審査の軟部組織損傷と重点的に学び、実際の臨床現場を想定し、来院した患者の対応、評価、施術を正しく行うことができる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

出席日数、後期期末試験(卒業試験)成績、授業態度

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論編、実技編

標準整形外科、解剖学、包帯固定学

[履修の条件・留意点]

実質的に、卒業後の柔整業務で非常に関わりの深い授業です。

## 授業計画：回数/講義内容/形式

1回	外傷性股関節脱臼、発育性脱臼①診察、施術	実習
2回	膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼解説、施術	実習
3回	実技認定対策授業	実習
4回	膝関節捻挫（前十字靭帯、側腹靭帯、半月損傷）	実習
5回	膝関節捻挫（ランナー膝、ジャンパー膝、スポーツ障害、成長障害）	実習
6回	下腿部損傷（コンパートメント症候群、シンスプリント、疲労骨折鑑別）	実習
7回	下腿部損傷、アキレス腱断裂	実習
8回	足関節捻挫（距腿関節靭帯損傷、腓骨筋腱脱臼）	実習
9回	足関節捻挫（ショパール関節、リスフラン関節捻挫）、足部成長障害	実習
10回	足根管症候群、フットポラーズアングル、外脛骨、三角骨障害）	実習
11回	足関節部～前足部脱臼（距腿関節）	実習
12回	足関節部～前足部脱臼（ショパール関節、リスフラン関節、足指関節）	実習
13回	体幹疾患①（脊椎部脱臼）	実習
14回	体幹疾患②（頸椎、胸椎、腰椎部疾患）	実習
15回	予備日（まとめ）	実習
16回	総復習練習①	実習
17回	総復習練習②	実習
18回	総復習練習③	実習
19回	総復習練習④	実習
20回	総復習練習⑤	実習

[授業科目]

**臨床実習Ⅳ****3学年**

[基本情報]

担当教員	<b>西田 朋美</b>		単位数	<b>1</b>	時間数	<b>45</b>
実務/資格	臨床経験有り/整形外科に勤めていた柔道整復師及び専科教員を持つ教員が指導する。					
開講学期	<b>前期</b>	<b>後期</b>	授業形態	---	<b>実習</b>	

[授業目標]

主訴に対し患部だけではなく、全身状態を観察し、  
問診・視診・触診・検査法を手順よくおこなえるようにする。  
患者さんの痛みに寄り添えるような柔道整復師になれるように基本を1から学ぶ。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、最終評価と臨床実習振り返りシートの記入をもって判定する。  
なお、例外を除いて、欠席は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復理論・実技

[履修の条件・留意点]

付属整骨院にて実習を行うので、身だしなみ(頭髪、髪色、服装、アクセサリ)には特に注意すること。医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。下記の実施内容についても練習するので、事前に復習をしておくこと。

**授業計画：回数/講義内容/形式**

1回	肘関節後方脱臼に対する診察・整復・固定・後療法	実習
2回	肘内障に対する診察・整復・固定・後療法	実習
3回	肩鎖関節上方脱臼に対する診察・整復・固定・後療法	実習
4回	鎖骨骨折に対する診察・整復・固定・後療法に	実習
5回	コーレス骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習
6回	肩関節前方脱臼に対する診察・整復・固定・後療法	実習
7回	大腿直筋に対する診察・固定・後療法	実習
8回	膝関節内側側副靭帯に対する診察・固定・後療法	実習
9回	膝関節内側半月板に対する診察・固定・後療法	実習
10回	膝関節前十字靭帯損傷に対する診察・固定・後療法	実習
11回	肋骨骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習
12回	肩腱板損傷に対する診察・固定・検査法	実習
13回	第2指PIP関節背側脱臼に対する診察・整復・固定・後療法	実習
14回	上腕骨外科頸外転型骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習
15回	ハムストリングス損傷に対する診察・固定・後療法	実習
16回	上腕骨骨幹部骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習
17回	下腿三頭筋損傷に対する診察・固定・後療法	実習
18回	アキレス腱断裂に対する診察・整復・固定・後療法	実習
19回	足関節捻挫に対する診察・整復・固定・後療法	実習
20回	上腕二頭筋腱損傷に対する診察・固定・後療法	実習
21回	下腿両骨骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習
22回	月状骨掌側脱臼に対する診察・整復・固定・後療法	実習
23回	第5中手骨頸部骨折に対する診察・整復・固定・後療法	実習